

学習指導要領		都立南平高校 学カスタンダード
<p>(1) 現代の政治</p> <p>現代の政治</p> <p>ア 民主政治の基本原則と日本国憲法</p> <p>日本国憲法における基本的人権の尊重、国民主権、天皇の地位と役割、国会、内閣、裁判所などの政治機構を概観させるとともに、政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義、地方自治などについて理解させ、民主政治の本質や現代政治の特質について把握させ、政党政治や選挙などに着目して、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について考察させる。</p> <p>イ 現代の国際政治</p> <p>国際社会の変遷、人権、国家主権、領土などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛及び国際貢献について理解させ、国際政治の特質や国際紛争の諸要因について把握させ、国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の三大原理を理解するとともに、大日本帝国憲法との相違点を把握する。 ・わが国の三権分立の構造について、国会、内閣、裁判所の働きを、抑制と均衡の関係をふまえて理解する。 ・おもな基本的人権の内容と、それらが侵害される事案について、判例に基づいて学習を進める。 ・権利相互の衝突を回避するための原理である「公共の福祉」に関して、憲法でどのように扱われているのかを確認する。 ・日本の議会制民主主義の特徴について、とくに議院内閣制や違憲立法審査制などの制定過程と仕組みに関して理解する。 ・地方自治の理念（住民自治と団体自治）をふまえ、条例の制定・改廃、議会の解散、議員や首長の解職など住民の直接請求権の工夫がなされていることを理解する。 ・おもな国の政治制度について、とくに議院内閣制の特徴を大統領制と対比させながら理解を深める。 ・わが国の戦後政治史を概観し、選挙制度と政治情勢の変化について、実際の事例をふまえて理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・国家の三要素を理解したうえで、わが国固有の領土をめぐる問題の所在について認識を深める。 ・国際連合の組織・機能とその役割について、国際連盟との比較を通して理解する。 ・国連平和維持活動（PKO）や政府開発援助（ODA）など、わが国の国際貢献活動について理解する。 ・国際平和の実現や、地球上の貧困や飢餓の撲滅に向けて、SDGs など新たな国際社会の行動目標に基づいてさまざまな取り組みが進められていることを自らの生活に関連づけて理解する。 	

学習指導要領	都立南平高校 学カスタンダード
<p>現代の日本経済及び世界経済の動向について関心を高め、日本経済のグローバル化をはじめとする経済生活の変化、現代経済の仕組みや機能について理解させるとともに、その特質を把握させ、経済についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。</p> <p>ア 現代経済の仕組みと特質 経済活動の意義、国内経済における家計、企業、政府の役割、市場経済の機能と限界、物価の動き、経済成長と景気変動、財政の仕組みと働き及び租税の意義と役割、金融の仕組みと働きについて理解させ、現代経済の特質について把握させ、経済活動の在り方と福祉の向上との関連を考察させる。</p> <p>(2) 現代の経済</p> <p>イ 国民経済と国際経済 貿易の意義、為替相場や国際収支の仕組み、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について理解させ、グローバル化が進む国際経済の特質について把握させ、国際経済における日本の役割について考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生産された財やサービスを効率的に分配するしくみとして、現代の市場経済が発達してきたことを理解する。 ・経済主体としての家計、企業、政府の相互関係について理解する。 ・貿易や為替など国際経済の動向が国民経済にも影響を与えていることを理解する。 ・需要供給曲線を活用して、市場における価格メカニズムについて理解する。 ・公害などの外部不経済の発生や、独占・寡占の広がりなど市場の失敗に関して、政府による適切な政策や立法の必要があることを理解する。 ・インフレーションやデフレーションの発生が国民生活に与える影響について理解する。 ・景気調整の機能である、伸縮的な財政政策と、自動安定化装置について理解する。 ・金融政策の基本的なしくみを習得し、さらに近年の量的・質的金融緩和政策の目的と内容を把握する。 <ul style="list-style-type: none"> ・貿易の意義について、リカードの比較生産費説をふまえて国際分業の利点を理解するとともに、国際収支の内訳や変動相場制のしくみについて理解する。 ・国際貿易体制の動向を GATT のラウンド交渉の変遷を通じて把握し現在の WTO 体制の目標と課題について理解を深める。 ・国際通貨制度のしくみについて理解する。 ・EU など地域経済統合の試みについて把握し、それぞれの共同体が目指すものと課題について理解を深める。

学習指導要領		都立南平高校 学カスタンダード
<p>(3) 現代社会の諸課題</p> <p>政治や経済などに関する基本的な理解を踏まえ、持続可能な社会の形成が求められる現代社会の諸課題を探究する活動を通して、望ましい解決の在り方について考察を深めさせる。</p> <p>ア 現代日本の政治や経済の諸課題</p> <p>少子高齢社会と社会保障、地域社会の変貌と住民生活、雇用と労働を巡る問題、産業構造の変化と中小企業、農業と食料問題などについて、政治と経済とを関連させて探究させる。</p> <p>イ 国際社会の政治や経済の諸課題</p> <p>地球環境と資源・エネルギー問題、国際経済格差の是正と国際協力、人種・民族問題と地域紛争、国際社会における日本の立場と役割などについて、政治と経済とを関連させて探究させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会における社会保障のあり方について、政府による福祉政策を重視する考え方と、国民の自助努力を重視した福祉の考え方とがあり、具体的な事例を通じて、二つの考え方を理解する。 ・地域社会の特色ある発展を促すためには、地方分権をさらに推進するための政策や制度が重要であることを理解する。 ・雇用と労働をめぐる問題については、超高齢社会の進展と生産年齢人口の減少、3K 職種を中心とした労働力不足などの課題をいかに解決すべきか、現実の多様な政策や取り組みについて理解する。 ・経済成長のために、各産業や中小企業に対する政府による保護育成が必要と考える立場と、規制緩和・自由化をさらに進める立場があることを理解する。 ・農業と食料の問題については、農業における生産、流通、貿易を自由化する考え方と、国内農業を保護するための政策を強化する考え方があることを理解する。 ・環境と資源・エネルギー問題については、開発と環境保護が対立する概念ではなく、「持続可能な発展」実現に向けた多様な取り組みについて理解する。 ・人種・民族問題や地域紛争については、少数民族の分離・独立という考え方と多数民族との共生という考え方とがあり、その二つの考え方を対照しながら、現実の地域紛争などの問題を理解する。 ・わが国ならではの今後の国際貢献の在り方について、NGO も含めた多様な活動状況を踏まえ、考えることができる。 	